

ふるさと 資料紹介

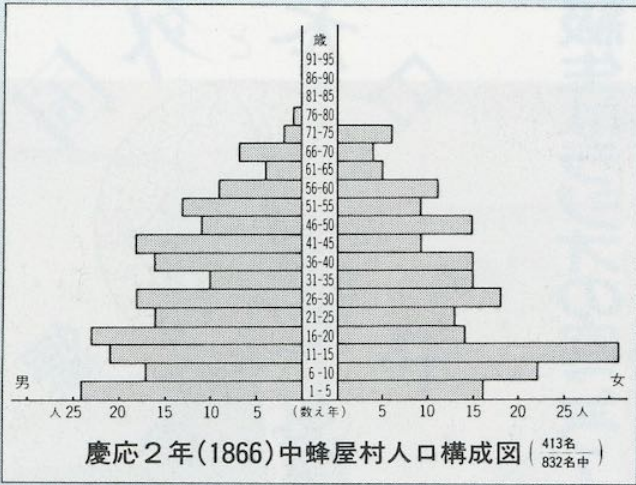
= (39) =

古文書にみる
近世庶民の暮らし⑦

人生五〇年

慶応二年、中蜂屋村の約半数、一〇一軒、四一三人の家族名簿が残っています。これは庄屋さんとか頭分百姓を除いた、ごく一般の人々の家のものです。

これによると、最高齢夫婦は、弥三八(七九)と女房(七一)です。また、年齢別グラ



フをみますと、六一歳以上の人は、七割しかいません。まさに「人生五〇年」でした。

また、一一歳から二五歳のところと、三一歳から三五歳のところの人数が少なくなっています。前者の生まれた年には、「丙午」(弘化二年、一八四六年)が含まれており、後者は、天保の大飢饉ききんのころです。天保二年夏、美濃加茂市域は、六〇日間雨が降らず、干害に苦しみました。(中蜂屋村では、雨乞いの祈願をした記録があります)これらのことと少人数とは、単なる偶然の一致ではないように思われます。

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

○牛馬用鋤すきほか二点
(平成六年八月分)

○サトウキビ搾り機しぼり
(板津正幸さん/本郷町)

○西田伸之さん/山之上町)
博物館建設のため各種の資料を収集しています。社会教育課文化係(内線二六一)まで情報をお寄せください。

ふるさとの宝ものみつけ!